

花巻市 博物館

目次／P1 特別展「^{ひかる}光ミュージアム所蔵 美を競う肉筆浮世絵の世界」開催／P 2-3 テーマ展「鉄道と花巻」、特別ミニ展示「奥羽再仕置 430 周年記念」／P4-5 特別展「^{ひかる}光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界」／P6 年間行事予定／P7 館長コラム・行事案内・インフォメーション／P8 花博コレクション



だより

2021. 4
No. **63**



ばいおうけんえいしゅん 梅翁軒永春「遊女と猫」(部分)

肉筆浮世絵とは、浮世絵師の自筆により描かれたもので、多色摺木版画の錦絵と違い、唯一無二の一点ものの絵画作品です。肉筆浮世絵に見られる浮世絵師の確かな画力がなければ、浮世絵が江戸時代の人々に愛されることはなかったといっても過言ではないでしょう。

令和3年度の花巻市博物館の特別展では、この肉筆浮世絵の世界をご紹介します。数多くの肉筆浮世絵を所蔵する^{ひかる}光ミュージアム（岐阜県高山市）の一大コレクションの中から、厳選された111点もの肉筆浮世絵を一堂に公開します。江戸で人気を博した浮世絵師、京・大坂など上方で活躍した絵師、現存する作品が少ない絵師など、多様な肉筆浮世絵を展示します。江戸時代中期（17世紀）から明治時代（19世紀）に至る肉筆浮世絵の流れを概観することができます。

令和3年度テーマ展

鉄道と花巻

— 近代のクロスロード —

期間：令和3年6月26日（土）～8月29日（日） 会期中無休

本展覧会では、近代の花巻における鉄道網の展開に焦点をあて、鉄道開発やそれに関わった人物、さらに当時の花巻の町の様子などを取り上げながら、現代へと繋がる交通拠点都市として発展した花巻の近代鉄道史をご紹介します。

■東北本線の開通

明治23年（1890）、民間の株式会社である日本鉄道会社によって上野―盛岡間が開通し、花巻駅が開業します。多くの地主たちが鉄道を恐れ、駅の敷地の提供を渋るなか、花巻町の伊藤儀兵衛は、自身の土地を無償で駅の敷地として提供しました。

当初、駅の周辺は、田、畑、原野ばかりのさびしい場所でしたが、やがて駅前へと続く道路が整備され、近辺に旅館や小荷物取扱書が開業し、穀類を保管する倉庫が建つなど開発が進むと、駅前にはぎわっていき、現代に通じる街並みが形成されていきました。



豊沢川を渡る東北本線の機関車両

■岩手軽便鉄道会社の誕生

明治43年（1910）と同44年に軽便鉄道法・軽便鉄道補助法が相次いで施行されると、全国各地に軽便鉄道が普及しました。

明治44（1911）年10月、岩手では当時の県知事笠井信一の肝入りで花巻と釜石を結ぶために岩手軽便鉄道株式会社が設立されます。創立委員長と

して盛岡銀行頭取などを勤めていた金田一勝定が選任され、県下で株を公募すると、目標を超過する応募があり、大正4年（1915）11月に花巻から仙人峠までが開通しました。昭和11年（1936）8月に日本国有鉄道（現在のJR）によって買収され、釜石線となると、その14年後には花巻から釜石に至る全長90.15kmが全線開通しました。



北上川に架かる鉄橋を渡る岩手軽便鉄道機関車両

■花巻電鉄と新温泉誕生

大正4年（1915）9月、岩手県で2番目に誕生した電気会社 花巻電気会社によって西公園―松原間が開通し、花巻電鉄鉛線が誕生しました。鉛線は東北初の電車でした。その後、鉛線は徐々に軌道延長していき、大正14年（1925）12月花巻電気を吸収合併した盛岡電気工業会社によって花巻―西鉛間が全線開通しました。

一方、大正7年（1918）、岩手軽便鉄道専務三鬼鑑太郎、花巻電気社長菊池忠太郎、地元豪商伊藤篤次郎ほか地元有志をはじめとした人々によって、台遊園地新温泉建設という壮大な温泉開発構想と、新しい電車軌道敷設を目指した台鉄道株式会社が組織されます。のちに計画は金田一^{くに}国土が社長を務める盛岡電気工業会社に引き継がれ、大正12年に新温泉（現在の花巻温泉）が開業し、その2年後の大正14年には花巻温泉線が誕生しました。

地元民や温泉客の足として活躍した花巻電鉄で

すが、昭和 40 年代に入ると利用者は減少していき、昭和 44 年（1969）には鉛線、昭和 47 年には花巻温泉線が廃止となり、その姿を消しました。



渡橋と鉛線（大沢温泉停留所付近）

■終章「新花巻駅の誕生そして現代へ」

昭和 46 年（1971）10 月 12 日、テレビを通じて発表された東北新幹線の停車駅に花巻の名前はありませんでした。当時、花巻は県南四市の中で最大の人口を誇り、また、県内唯一の空港も設置されていたことから、多くの市民は、花巻に新幹線が停まるものと信じて疑っていませんでした。この時の落胆と憤怒から一部の市民が市民会議を結成し、新駅誘致に向けて立ち上がります。

市民総決起大会の開催や 200 回以上にわたる陳情活動が実を結び、昭和 60 年（1985）3 月、全国初の請願駅である新花巻駅が開業しました。

東北新幹線新花巻駅の開業をもって、現在まで続く花巻の鉄道網は完成したといえます。

（学芸員 小田島智恵）

■関連イベント

○講演会「釜石鉱山鉄道（仮）」

日 時 2021 年 7 月 17 日（土）

場 所 花巻市博物館 講座体験学習室

講 師 森 一 欽 氏

（釜石市 文化スポーツ部 世界遺産課 課長補佐）

定 員 20 名

○学芸員講座「岩手軽便鉄道と花巻（仮）」

日 時 2021 年 7 月 31 日（土）13:30～

場 所 花巻市博物館 講座体験学習室

講 師 当館学芸員

定 員 20 名

○ギャラリートーク

日 時 2021 年 7 月 10 日（土）13:30～

2021 年 8 月 7 日（土）13:30～

場 所 花巻市博物館 企画展示室

○ワークショップ（内容は未定）

日 時 2021 年 8 月 8 日（日）13:30～

場 所 花巻市博物館 講座体験学習室

材料費 未定

定 員 15 名

※新型コロナウイルス予防対策のため講演会・学芸員講座・ワークショップは事前申込制

問合せ先 ☎ 0198-32-1030

ミニ展示 《同時開催！》 奥羽再仕置 430 年記念事業

「稗貫・和賀両郡と再仕置」

一揆・反乱の鎮圧にあたりました。

令和 3 年（2021）は、再仕置によって秀吉の天下統一が完成してから 430 年という節目の年になります。そこで、これに関連する地域の資料館・博物館が連携して奥羽再仕置 430 年を記念する展示を行い、日本史上の大きな転換点となった再仕置の意義を再評価します。

構 成：序 奥羽仕置／壱 一揆蜂起／弐 破城と花巻城存置／参 再仕置の功罪／終 北の元和偃武

参加予定館：花巻市博物館・えさし郷土文化館（展示協力 奥州市教育委員会事務局歴史遺産課）・仙台市博物館・石巻市教育委員会複合文化施設開設準備室・福島県立博物館・米沢市上杉博物館・山形大学附属博物館・栃木県立博物館・那須与一伝承館・八戸市博物館・もりおか歴史文化館・高岡の森弘前藩歴史館・新潟県歴史博物館

「美を競う 肉筆浮世絵の世界」展

期間：令和3年4月24日（土）～令和3年6月6日（日）まで

「浮世^{うきよ}」とは「現在」、「当世」を意味しています。浮世絵とは、それが描かれていた時代を生きた市井^{しせい}の人々の間で流行ったものや話題になったものなどの生活風俗や、歌舞伎、吉原などの遊郭風俗^{ゆうかくふうぞく}、年中行事などを題材にした絵画を指しています。

浮世絵は、木版により制作される版本の挿絵や一枚絵と、肉筆浮世絵に大別されます。最も進化したのが木版で量産される一枚絵の浮世絵です。さらに木版を複数枚に彫り分けて、色を重ねて印刷する当時の最先端である多色摺^{たしかずり}の技術を確立させ、大量に色鮮やかな絵を制作することが可能になると、庶民でも気軽に浮世絵を入手し鑑賞することができるようになりました。この色鮮やかな絵を錦絵^{にしきえ}といいます。

肉筆浮世絵とは、浮世絵師の自筆により描かれたもので、多色摺木版画の錦絵と違い、唯一無二の一



歌川豊春 「遊女と扇」(部分)



葛飾為直 「見立普賢菩薩」(部分)

点ものの絵画となります。肉筆浮世絵は主に美人画が多く描かれていて、美人のつややかな髪すじや、華やかな衣装の文様などに、絵師の技量の高さを見ることができます。

令和3年度の花巻市博物館の特別展では、この肉筆浮世絵の世界をご紹介します。展覧会を開催します。数多くの肉筆浮世絵を所蔵する^{ひかる}光ミュージアム（岐阜県高山市）の一大コレクションの中から、厳選された111点ものの肉筆浮世絵を一堂に公開いたします。

す。江戸で人気を博した浮世絵師から、京・大坂など上方で活躍した絵師、現存する作品が少ない絵師まで、数多くの肉筆浮世絵を木製額に納めた状態で展示しますので、絵の細部にいたるまでじっくりと鑑賞していただけます。

江戸時代の人々に愛された浮世絵は、日本独自の芸術として発展しました。浮世絵師の自筆による肉筆浮世絵は、絵師の卓越した筆遣いや、華やかで艶があり色彩あざやかな文様装飾など、版本や版画などの錦絵にはない華麗さがあります。どうぞ展覧会へ足をお運びいただき、その美しさを競い合う肉筆浮世絵の数々を是非ご覧ください。



宮川一笑 「桜下美人」(部分)



溪斎英泉 「立ち美人」(部分)

■特別講演会

日 時 5月23日(日) 13:30~15:00

講 師 鈴木浩平氏(美術史家・本展監修者)

演 題 肉筆浮世絵で味わう美人画の魅力

場 所 講座体験室

定 員 30名

聴講料は無料ですが、事前申込みが必要です。

※新型コロナウイルス感染症予防対策として、本講演会はリモート若しくは録画映像での開催となる可能性があります。

○ギャラリートーク

日 時 4月29日(木・祝)、5月9日(日)

13:30~14:00

場 所 企画展示室

学芸員が展示の解説をします。申込不要ですが、入館料は必要です。

○ワークショップ「浮世絵ぬり絵」

日 時 5月16日(日) 13:30~15:00

場 所 講座体験室

定 員 15名程度

材料代 700円

※特別講演会及びギャラリートーク、ワークショップについて、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、発熱・体調不良の方の聴講・見学等ではできませんので、ご了承願います。

※聴講の際には、体温計測、住所氏名等の連絡先情報記入、密にならないよう間隔をあけての聴講・見学する等、館職員の指示に従い行動願います。

令和3年度 展示案内

○特別展 光ミュージアム所蔵

「美を競う 肉筆浮世絵の世界」

期間：4月24日（土）～6月6日（日）

江戸中期から明治までの人気絵師たちが描いた優美で濃密な一点ものの肉筆画。多色摺木版画の錦絵とはまた違った魅力を紹介します。

★関連事業

記念講演会、ワークショップ、ギャラリートーク等

○テーマ展「鉄道と花巻 - 近代のクロスロード -」

期間：6月26日（土）～8月29日（日）

明治23年（1890）、上野盛岡間に鉄道が開通し花巻駅が開業。これを契機に活気づいた鉄道事業に焦点をあて、交通拠点として発展した花巻の近代鉄道史を紐解きます。

★関連事業

講演会、ギャラリートーク等

○ミニ展示 奥羽再仕置 430 年記念事業

「稗貫・和賀両郡と再仕置」

期間：6月26日（土）～8月29日（日）

奥羽再仕置によって豊臣秀吉の天下統一が完成してから430年が経ちます。日本史上の大きな転換点となった、奥羽再仕置の意義を再評価します。

○テーマ展「新収蔵資料展」

期間：9月18日（土）～11月23日（火・祝）

博物館が、近年市民から寄贈いただいた、美術工芸を中心とした作品や資料を紹介します。

★関連事業

ワークショップ、ギャラリートーク等

○共同企画展 ぐるっと花巻・再発見！「多田等観」

期間：12月11日（土）～翌1月23日（日）

チベットから持ち帰った仏像や仏画、花巻との心温まる交流を示す資料等を紹介します。

★関連事業

ギャラリートーク等

○企画展「ブドリのイーハトーブ災害ノオト

～近世近代東北の災害史～

期間：2月11日（金・祝）～5月8日（日）

日本は災害列島と称され、多くの災害が発生してきました。東北の災害史に着目し、災害と復興についての理解を深めます。

★関連事業

シンポジウム、ギャラリートーク等

○テーマ展「花巻人形」

期間：2月11日（金・祝）～5月8日（日）

館が誇る570種3,500点以上にも及ぶ花巻人形。素朴でありながらも、優雅さを併せ持つ花巻人形の奥深い魅力を紹介します。

★関連事業

ワークショップ、ギャラリートーク等

令和3年度 講座&ワークショップ案内

《講座》

◎館長講座

第1回 6月26日（土）

「古代の花巻 - 熊堂古墳群から稗貫郡の建郡 -」

第2回 10月2日（土）

「中世末から近世初頭の花巻 - 鳥谷崎城から花巻城へ -」

第3回 1月22日（土）

「西域と多田等観と宮沢賢治」

★聴講無料、申込要

◎学芸員講座

第1回 7月3日（土）、第2回 7月31日（土）

第3回 12月18日（土）、第4回 3月26日（土）

★聴講無料、申込要

《ワークショップ》

◆勾玉づくり

日にち：①5月3日（月・祝）

②9月18日（土）

内 容：滑石を削って、磨いて、古代のアクセサリー「勾玉」をつくります。

材料費：340円 定 員：15名 申込要



◆琥珀玉づくり

日にち：①5月4日（火・祝）

②9月19日（日）

内 容：琥珀を削って、磨いて、古代のアクセサリー「琥珀玉」をつくります。

材料費：840円 定 員：15名 申込要



◆縄文弓矢・火起こし体験

日にち：5月5日（水・祝）

内 容：弓矢を使った的当てと、木を使った火起こしに挑戦します。

参加費：無料 定 員：15名 申込要

◆花巻人形絵付け体験

日にち：①7月25日（日）

②3月27日（日）

内 容：平賀工芸社の平賀恵美子さんを講師に迎え、花巻人形の絵付けを体験します。

参加費：1,600円～ 定 員：15名 申込要



※講座・ワークショップの場所は博物館講座体験学習室、時間は13時30分～15時までを予定しています。

※新型コロナウイルス感染症への対応等により、内容に変更がある場合があります。最新の情報はホームページなどで詳細をご確認ください

館長 コラム

三人姉妹の女神

花巻の胡四王山には、薬の神の子である三人姉妹の伝説が残されている。三姉妹は、薬草を探しながら自分の好きな山を選び、そこの神になるよう命じられていた。三人共美しい姿の早池峰山を一番に、二番目に羽山、三番目の候補に胡四王山を思い描いていた。薬草採りに疲れた三姉妹は、いつの間にか眠ってしまう。最初に目を覚ました三番目の妹神は早池峰山に行き、次に目を覚ました二番目の妹神が羽山の神になった。目を患っていた姉神は、遅く起きたので胡四王山の神になったという。目が悪く遅れをとった姉神は、衆人の為に眼病を直してやろうと誓願をたてたので、胡四王山は眼病を患う人々の信仰する山になったという。

新潟県北部から山形県、秋田県の特に関東海側に「こしおう」と呼ぶ神を祀る社が多くある。よく知られているのが秋田市寺内にある古四王神社である。四道將軍のひとり大彦命おほひこのみことがこの地に来て武甕槌神たけみかづちのかみを祀り、その後阿部比羅夫あべのひらふが下向した時に大彦命を合祀して、古四王の尊称を奉ったという伝承がある。この古四王神社は、眼病

平癒へいゆの御利益があるという。

民俗学者の谷川健一は、その著『白鳥伝説』の中で、秋田市寺内の古四王神社には、ウデで目を突いて一眼を失った話があることを紹介し、古四王神は、日本神話に登場する製鉄や鍛冶の神である天目一箇神あまのまひとつのかみとの関連を指摘している。

花巻の胡四王神社の南斜面には、平安時代の住居跡が確認されている。東京大学東洋文化財研究所が昭和32年(1957)に発掘した17号住居址からは、土製の羽口、大量の鉄滓や木炭が検出されていて鍛冶を行う工房と考えられている。また、平成20年(2008)の花巻市博物館の調査では、17号住居の近くから炭窯を検出している。胡四王山遺跡の古代の集落は、鍛冶と関わる集団であったことは明らかである。

これまで、胡四王山遺跡は、頂部の胡四王神社と中世の館に伴う三条の堀と堀の下にある古代集落を別々に捉えてきた。しかし、堀は防御の為に堀ではなく、宗教的結界を示すものではないかとも考えられる。そうすると、神社と堀と集落を一体のものとして捉えることも出来るようである。

(館長 高橋信雄)

行事予定

令和3年4月
令和3年7月の行事予定

企画展示室

●特別展 光ミュージアム所蔵

「美を競う 肉筆浮世絵の世界」

会 期：4月24日(土)～6月6日(日)

会期中無休

入館料：一般600円(500円)

高校生・学生400円(300円)

小・中学生200円(100円)

※常設展と共通、()内料金は20名以上の団体料金

●テーマ展

「鉄道と花巻～近代のクロスロード～」

会 期：6月26日(土)～8月29日(日)

会期中無休

入館料：一般350円(300円)

高校生・学生250円(200円)

小・中学生150円(100円)

※()内料金は20名以上の団体料金

講座・ワークショップ

【講座】

5月23日(日)特別展記念講演会

6月26日(土)館長講座①「古代の花巻」

7月3日(土)学芸員講座①

「奥羽再仕置(仮)」

7月17日(土)テーマ展講演会

「釜石鉱山鉄道(仮)」

7月31日(土)学芸員講座②

「岩手軽便鉄道(仮)」

※いずれも要事前予約。詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。

【ワークショップ】

5月3日(月・祝)勾玉作り体験

5月4日(火・祝)こはく玉作り体験

5月5日(水・祝)弓矢火起し体験

5月16日(日)浮世絵めぐり

7月25日(日)花巻人形絵付け体験

※いずれも要事前予約。詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050

開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで

休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学 生	250(200)円
	一 般	350(300)円

※()内は20名以上の団体割引料金

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線
新花巻駅より車で3分
- 東北本線
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道
花巻空港I.Cより車で約5分
- バス
新花巻駅より約5分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口下車



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

花博 コレクション

Hanahaku collection



↑ 手回し洗濯機（館蔵）



↑ これまでの出前授業「昔の道具と暮らし」の様子

カモメホーム洗濯機

銀色の人工衛星のようにも見えるこの道具は、昭和32年（1957）ごろ群馬県の実業製作所から発売された「カモメホーム洗濯機」です。ハンドルをくるくると回して使用するので「手回し洗濯機」とも言われています。

使い方は、この球体に洗濯物と洗剤を溶かした熱湯を注ぎ、ふたを閉めて20秒ほど回転させるだけ。濯^{すす}ぎもお湯を入れ替えて、またくるくると回すだけ。

現在の洗濯機と比べると圧倒的に短時間で洗濯できるように思えますが、手回し洗濯機と現在の洗濯機では汚れを落とす仕組みが異なります。現在の縦型洗濯機は、攪拌^{かくはん}によって生まれる水流の力で汚れを落としているのに対して、手回し洗濯機は熱湯と球体の回転によって高まった空気圧で汚れを落としているのです。

残念ながら、同時期に発売が開始された電気洗濯機に押され、昭和38年には生産が中止になってしまった「カモメホーム洗濯機」ですが、この仕組みを利用した手回し洗濯機は現在でも販売されており、電気を使わずに汚れを落とすことができる洗濯機として注目されています。

花巻市博物館では市内の小学校3年生を対象に、こうした昔の道具に触れ、その暮らしについて学ぶ出前授業を行っています。授業では、最初に道具の名前や使い方を教えずに、この道具はどのように使うのか、何のための道具なのか観察します。子どもたちの発想は自由で奇想天外！手回し洗濯機に触れて、「ご飯を炊く道具？」「バターをつくる道具？」などの豊かな発想にこちらも笑顔になってしまいます。

便利で豊かな時代に生まれ育った現代の子供たちにとって、こうした昔の道具は珍しくて面白いもののようなのです。とはいえ、大人たちが過ごしてきた昭和・平成の時代で使われてきた道具も徐々に「懐かしい」ものになってきてしまいました。あの頃普通に使っていた道具を、“昔の道具”として子供たちに見せる日も近いのかもしれません。

（学芸調査員 松橋香澄）